

- (1) 日本農薬学会誌における投稿論文(以下投稿論文という)に関する規則は、一般社団法人日本農薬学会日本農薬学会誌投稿要領の他は、この要領によって定める。
- (2) 投稿論文は農薬および広くその周辺領域に関するものとする。その内容は原稿受付日において他に印刷公表されていないか、他誌に投稿していないものに限る。
- (3) 投稿論文の論文種別は原著論文(報文および短報)ならびに調査論文(技術資料および総説)とする。報文は独創的な研究で、それ自身独立して価値のある結論あるいは事実を含むもの、短報は、たとえば、限られた部分の発見や新しい実験方法等、報文としてはまとまらないものであっても報告する価値のあるものとする。技術資料は既知の方法による実験若しくは調査の結果または統計等をまとめたものとする。総説は 関連諸分野の今日的な話題の解説とし、投稿に関してはあらかじめ日本農薬学会誌編集委員会の承諾を受けるものとする。
- (4) 投稿論文の長さは、図表等を含め刷り上がりで、報文、技術資料ならびに総説は原則として 8 ページ以内、短報は 4 ページ以内とする。
- (5) 原稿は編集事務局(jps-editingroom@pssj2.jp)に送付すること。なお、原稿受付日は投稿原稿が本事務局によって受付処理された日とする。
- (6) 原稿の記述は、次のとおりとする。原稿の作成には、最新の日本農薬学会誌のスタイルを参考にすること。第 1 ページに表題名、著者名、所属機関名、および 40 字以内の短縮題目を記載すること。責任著者へのアスタリスク(*)と E-メールアドレスを付記すること。第 2 ページには、英語で題目、著者名、所属機関名、所在地、要約および数単語よりなるキーワード 6 個以内を記載すること。要約は 100 語程度のものとし、本文と切り離しても意味が通じ、論文の主要な成果が具体的にわかるように記述すること。第 3 ページ以降において報文では、原則として、緒言、実験方法、結果、考察、要約、(謝辞)、引用文献の順に記載すること。短報、技術資料の見出しについては特に定めない。
- (7) 表題は内容を具体的に表わし、且つ簡潔であること。大題目にシリーズ番号を付して副題目をつけるような形式をとる場合には、副題目を上記表題とし、大題目およびシリーズ番号は第 1 ページの脚注に第 1 報のように表示すること。この際、前報の掲載場所を明示(引用文献に引用されている場合には文献 1 参照のように記載)すること。
- (8) 所属機関の所在地の英名は、町、郡(市)、県、郵便番号、国の順に郵送可能な範囲で記すこと。
- (9) 原稿の書き方は下記による。電子ファイルは、拡張子が.doc または.docx の形式で作成すること。A4 判縦長の様式で、32 字× 25 行(横書き)になるよう文字および行間隔を適当に確保して作成すること。仮名は現代仮名遣いによる平仮名を用いること。

ただし、生物名、国名、外国地名、外来語等は片仮名を用いること。句読点は「。」、
「、」を用いること。各ページの中央下にページ番号を記入し、左側に行番号を印
字すること。刷り上がり 1 ページは、A4 版用紙 3 枚分(短報では 3.3 枚分)に相当す
る。本文中の見出しには 1.、2.、3.を付し、小見出しには 1.1.、1.2.、1.3.を付すこ
と。図表は、本文中には書き込まないこと。ただし、挿入箇所は本文原稿の欄外に、
Fig. ○、Table ○と朱書きで指定すること。図表は下記の書き方に従って、一つご
とに別ページに記載すること。

a) 日本農薬学会誌の図表は、和文による作成を原則とする。

b) 図について

i) そのまま印刷に使用できるように作成すること。電子ファイルは、.ppt、.pptx
または.ai の形式とすること。拡張子が.xls や.xlsx の形式のファイルは受け付け
ない。

ii) タイトルおよび説明は、本文の最後に図の説明として番号順にとりまとめる
こと。図中の文字サイズは印刷時の縮尺を考慮して、少なくとも 11 ポイント以
上を用いること。

iii) 原稿は会誌掲載図版の約 2 倍(面積として 4 倍)に描くこと。ただし実際の縮
図比は、編集事務局において決定する。周囲には少なくとも 3cm 程度の余白を
残すこと。

iv) 文字サイズは印刷時の縮尺を考慮して、少なくとも 11 ポイント以上を用い
ること。

c) 表について:作成する電子ファイルは、.xls、.xlsx または.doc、.docx とすること。
ファイル形式が.doc、.docx の場合はソフトウェアの作表機能を用いて作成する
こと。

(13) 有用な補足的情報は、下記のように補足資料としてオンライン上で公開できる。論
文の紙面公表にはサイズが大きすぎるが、有用な詳細情報(図、表、式の誘導、計算
方法、スペクトル、その他)の補足資料は、印刷される原稿ファイルとは別のファ
イルとして編集事務局に送付する。補足資料は、印刷紙面には掲載されないが、電
子ジャーナル上の論文には付随して公開される。本文中における引用は、補足図 1、
補足表 1 等とし、さらに、本文のキーワードの記載の次に「補足資料は J-Stage の
日本農薬学会誌で閲覧できる」と明記すること。

(14) 生物の種名は学名か一般名のいずれかを使用し、一般名を使用する場合は初出時
において学名を併記すること。

(15) 本文中の数式は $(RT/nF) \cdot \ln(a/a_0)$ のように書くこと。

(16) 年月日は原則として西暦で、2001 年 8 月 31 日のように書くこと。

(17) 構造式は適切な描画ソフトを用いて作製し、立体構造の記号は必要ならば、区別を
明確にすること。

(18) 本文中の引用文献番号は当該事項の右肩に引用順に^{1,2)}や³⁻⁵⁾のように付け、引用文献は文献欄に番号順に列記すること。和文の報文等における引用文献の記載は、下記の例のように記載すること。

- 1) 加藤玄俊、小野木由佳、天野昭子:育苗箱施用したクロチアニジン、オリサストロビンおよびフィプロニルの本田田面水、土壌および植物体中の残留量について、農薬誌 **45**、59–67 (2020)
- 2) 松中昭一:「日本における農薬の歴史」、学会出版センター、2002
- 3) 坂本典保、椋本藤夫、真鍋明夫:新規農薬の研究開発の世界的動向「農薬の創製研究の動向—安全で環境に優しい農薬開発の展開—」(梅津憲治監修)、シーエムシー出版、pp.1–17、2018
- 4) 重吉沙衣、田中千尋、宮川恒、入江俊一、鈴木一実、泉津弘佑:抗真菌性化合物 Tolnifanide は RHO1 および RAC1 の攪乱により致死性を発揮する、日本農薬学会第 44 回大会講演要旨集。p.78, 2019
- 5) A. Sugiura, S. Horoiwa, T. Aoki, S. Takimoto, A. Yamagami, T. Nakano, Y. Nakagawa and H. Miyagawa: Discovery of a nonsteroidal brassinolide- like compound, NSBR1. *J. Pestic. Sci.* **42**, 105–111 (2017).
- 6) I. Yamamoto and J. E. Casida (eds.): “Nicotinoid Insecticides and the Nicotinic Acetylcholine Receptor,”Springer, Tokyo, 1999.
- 7) T. Yamada, H. Takahashi and R. Hatano: A novel insecticide, acetamiprid. In “Nicotinoid Insecticides and the Nicotinic Acetylcholine Receptor,”ed. by I. Yamamoto and J. E. Casida, Springer, Tokyo, pp.149–176, 1999.
- 8) Y. Ishiguri, H. Takano and Y. Funaki (Sumitomo Chemical Co., Ltd.): *Eur. Pat. Appl.* EP 92961 (1983).
- 9) A. Elbert, K. Iwaya and S. Tsuboi: *Brighton Crop Protection Conference Pests and Diseases*, 2–1, 21–28 (1990). Vol.30, No.2, i–iv (2005).
- 10) <http://www.jstage.jst.go.jp/article/pestics/> (Accessed 21 Feb., 2008).

文献リストは全ての著者を記述する。しかし、著者が 10 人を超える文献の場合は、印刷に際して編集事務局が「ら」と省略することがある。

- (19) 脚注は、その事項の右肩にアスタリスク*を付し、本文の引照頁の下方に線を引いて、その下に*とともに記入すること。同一頁の中に数個の注がある場合には、*の数によって区別すること。また表中の注は同様に^{a),b)}...をつけること。
- (20) 原稿においてイタリック、小キャピタルなどの字体は明確に表現されていること。学名はイタリックとする。また、ギリシャ文字は Symbol 書体を用いることとする。
- (21) 数量の単位は原則として国際単位系 SI を用い、M(メガ)、k(キロ)、d(デシ)、c(センチ)、m(ミリ)、μ(マイクロ)、n(ナノ)、p(ピコ)を付して十進法をとる。略記単位には複数でも原則として s をつけない。なお、各学問分野で慣用的に用いられてい

る単位で、SI 単位に書き換え難いものは使用しても差し支えない。単位・術語の略字などは次の例による。

長さ: m (メートル)、Å (オングストローム)

面積: m² (平方メートル)、a (アール)、ha (ヘクタール)

容積: L (リットル)、mL (ミリリットル)、μL (マイクロリットル)、m³ (立方メートル)

質量: g (グラム)、ton (トン)

時間: sec (秒)、min (分)、hr (時間)、day (s) (日)、week (s) (週)、month (s) (月)、year (s) (年)

温度: °C (摂氏温度)、K (絶対温度)

濃度: M (モル濃度)、%, ppm、mg/mL、mg/L、mg/kg、g a.i./ha

物質質量: mol (モル)

エネルギー量: cal (カロリー)、J (ジュール)、erg (エルグ)、eV (エレクトロンボルト)

力: N (ニュートン)、dyn (ダイン)、S (Svedberg)、F (ファラッド)

圧力: mmHg (水銀柱ミリメートル)、torr、atm (気圧)、Pa (パスカル)

電気および磁気: V (ボルト)、W (ワット)、A (アンペア)、Ω (オーム)、C (クーロン)、G (ガウス)

放射能: Bq (ベクレル)、cpm (counts per minutes)

回転数、周波数: rpm、Hz

角度: °(度)、radian (ラディアン)

その他の記号および記載は次の例によること。

Na⁺、Cl⁻、Mg²⁺、SO₄²⁻、mp、bp 72°C (4mmHg)、t_R (保持時間)、*d* (密度)、*c* (濃度)、S_{20,w} (沈降係数)、*E*, *E*₀ (吸光係数)、LD₅₀、LC₅₀、KT₅₀、I₅₀、TLm、ED₅₀、pH、fp (凝固点)、vp (蒸気圧)、p*K*_a、p*K*₁、R_f、K_m、OD₂₈₀、ppm、ppb、ppt、eq (当量)、TLC、HPLC、GC、GC-MS

- (22) 分析値の記載はできるだけ実験方法で行うこと。測定法の略称、測定単位、測定値、帰属などを盛り込んで以下のように簡潔に記載すること。

[α]_D+30° (c 1.0, CDCl₃)

UV λ_{max} (EtOH) nm (ε): 246 (11,000), 296 (8250) ORD (c 0.124, MeOH) [α]³¹ (nm): -20° (578), -42° (360)

¹H NMR δ_H (CDCl₃): 1.34 (3H, *t*, *J* = 7.2 Hz, CH₃CH₂O), 4.26 (2H, *bs*, NH₂)

¹³C NMR δ_X (C₆D₆): 218.6, 165.4, 67.8

MS *m/z* (%): 156 (12) M⁺, 141 (17) [M-CH₃]⁺. EIMS, CIMS, FABMS などイオン化条件を含めても良い。

HRMS *m/z* (M⁺): Calcd. For C₂₀H₂₉N₃O₃: 359.2209, Found: 359.2195

元素分析値 Found: C, 48.23; H, 6.17; N, 26.55%. Calcd. For C₁₇H₂₆N₈O₅: C, 48.33; H, 6.20; N, 26.53%のように記すこと。

- (23) 標識化合物の表示は下記の例にならいローマン体文字を使用し、位置を表示する場合は[]に位置と核種を指定する。

[carbonyl-¹⁴C] acetone、[ring-¹⁴C] phenylalanine、[U-¹⁴C] aniline

- (24) 大きい数を書くときはたとえば 86,547,300 のように数字を 3 桁ごとにコンマをつけ区切ること。また、ページ数、特許番号、西暦等の数字にはコンマを入れない。数量の記載は次の例による。

0.3–0.5 g、 4.5×21 cm、 6.02×10^{23}

- (25) 無機化合物および有機化合物の命名法は IUPAC のルールに従う。

化合物の名称で、allo、bis、cyclo、des、etio、homo、iso、neo、pseudo 等は名称の一部とみなし、印刷字体はローマン体とし、ハイフンを使わず原化合物名に直結する。*o* (ortho)、*m* (meta)、*p* (para)、*n* (normal)、*sec* (secondary)、*tert* (tertiary)、*cis*、*trans*、*gauche*、*erythro*、*threo*、*syn*、*anti* または光学的活性、不活性を示す *d* (dextro)、*l* (laevo)、*dl* (racemic)、*I* (inactive)などはイタリック体とし、置換体を示す *N*、*O*、*C* 等もイタリック体を用いる。糖類およびアミノ酸等の立体配置の系統を示すためには *d*、*l* (小キャピタル) および *dl* (小キャピタル)を、絶対配置には (*R*)、(*S*)を、幾何異性には (*E*)、(*Z*)を使用すること。

- (26) 簡単な慣用溶媒、試薬および無機化合物は、たとえば次のように表示してもよい。ただし同一物質の表示に際して分子式と物質名を混用してはならない。MeOH、EtOH、AcOH、NaOH、HCl、PhCl またアルキル基、アリール基は *R*、*Ar* と表示してもよい。

- (27) 特別な場合を除いては、(16)の数量単位記号、(17)の略称および Expt. (Experiment)、Fig. (Figure)、Eq. (Equation)などの略字を本文中に用いることができる。

- (28) 略号は次のように書くこと。

et al.、*i.e.*、*e.g.*、*in vacuo*、*etc.*、*viz.*、*in vitro*、*in vivo*、*via*、*de novo*、*ca.*、*max*、*min*、*mol. wt.*、*No.*、*fraction No.*、*conc.* (*concentration* は全綴り)、*dil.*、*abs.*、*aq.*、*anhyd.*、*Figs. 1 and 2*、*Eq.*

- (29) 遺伝子等の DNA 塩基配列データに関しては、データベース登録番号 (DDBJ/EMBL/Genbank Acc. No.)を明記する。また、タンパク質の X 線結晶構造解析の原子座標データについても、PDB、CCDC 等のデータベース登録番号を明記する。著作物の一部、若しくは全部を転載その他の方法で利用しようとするときは、著作権保持者の許可を必要に応じて取得し、明示すること。引用文献に印刷中の論文、および本誌へ投稿中の論文がある場合にはそれらを添付のこと。なお、編集事務局からの要求があった場合は、その他の参考資料も提出しなければならない。図および写真はそのまま製版に使用できるものにする。また、カラー頁の使用は実費を申し受ける。なお、電子版におけるカラーの使用は無料とする。写真、図が多数のときには製版費用の実費を申し受けることがある。投稿論文またはその研究が、

執筆倫理または生命倫理の観点から問題のないものであることを 第 1 ページに明記し、確約すること。不明な点は、次の編集事務局に問い合わせること。

E-mail: jps-editingroom@pssj2.jp

附則

本要領は、2025 年 7 月 26 日から施行する。